

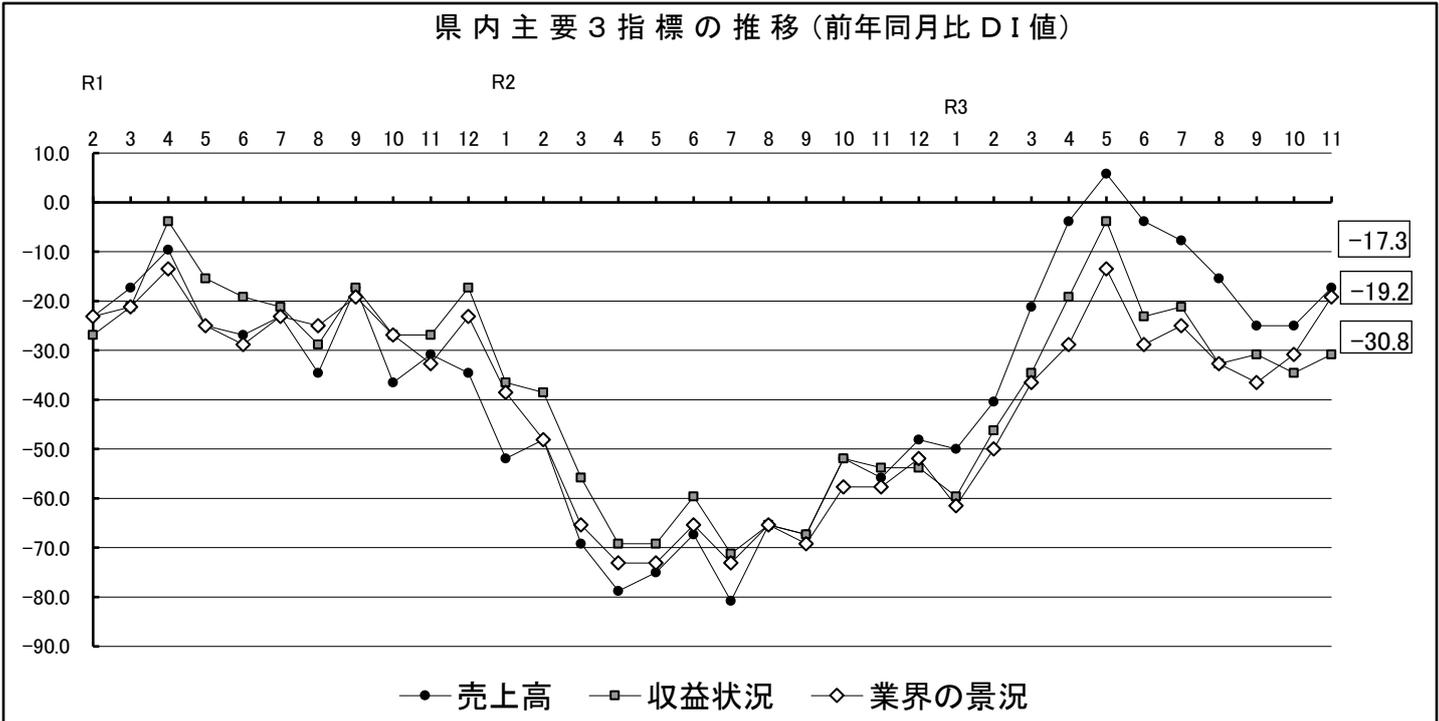
# 中小企業団体情報連絡員報告結果(令和3年 11 月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員 5 2 名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要 3 指標「売上高」「収益状況」「業界の景況」はすべて上昇した。
- 製造業で「印刷」「鉄鋼・金属」、非製造業で「小売業(飲食業)」「サービス業」で特に厳しい状況。
- 一部業況の改善が見られたものの、原材料の高騰や新たな変異株の発生などから、予断を許さない状況が続いている。

県内主要 3 指標の推移 (前年同月比 DI 値)



主要3項目	県内		全国	
	DI 値	前月比	DI 値	前月比
売上高	-17.3	+7.7	-3.5	+14.1
収益状況	-30.8	+3.8	-26.1	+5.3
業界の景況	-19.2	+11.5	-22.3	+5.6

### 売上高

当月の県内売上高 DI 値は、前月より 7.7 ポイント上昇し、-17.3 ポイントとなった。全国においては、前月より 14.1 ポイント上昇し、-3.5 ポイントとなった。

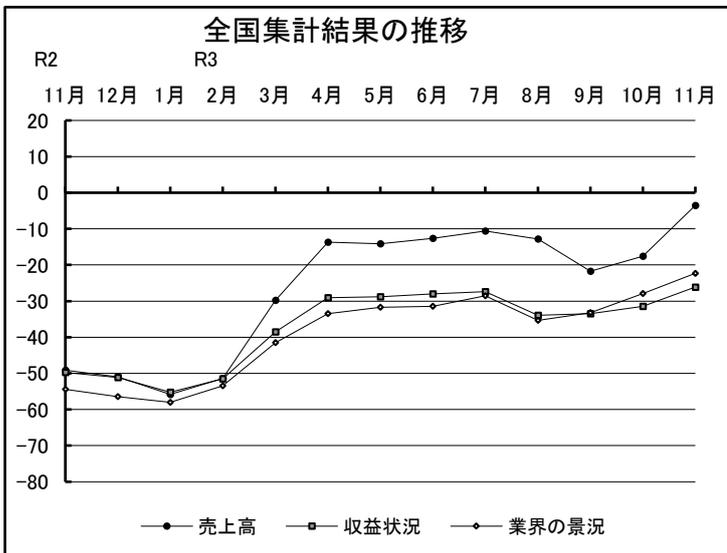
### 収益状況

当月の県内収益状況 DI 値は、前月より 3.8 ポイント上昇し、-30.8 ポイントとなった。全国においては、前月より 5.3 ポイント上昇し、-26.1 ポイントとなった。

### 業界の景況

当月の県内業界の景況 DI 値は、前月より 11.5 ポイント上昇し、-19.2 ポイントとなった。全国においては、前月より 5.6 ポイント上昇し、-22.3 ポイントとなった。

全国集計結果の推移



## -概況-

11月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中6指標が上昇した。主要3指標は「売上高」は7.7ポイント上昇、「収益状況」が3.8ポイント上昇、「業界の景況」が11.5ポイント上昇となった。しかし、「収益状況」は依然として-30ポイント台なので厳しい水準にあるといえる。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「印刷」「鋼鉄・金属」で「売上」が前月よりも下降し厳しい。特に、「木材・木製品」ではウッドショックが一部回復の兆しをみせているとの報告があったが、それ以外の各種資材等の品薄・価格高騰が未だ収まっておらず厳しいままである。「鉄鋼・金属」では、引き続き半導体不足で製品が納品出来ないなどの声も聞かれ、材料費高騰とともに懸念材料となっている。非製造業においては、特に「小売業(飲食業)」「サービス業」等で依然としてマイナス状態となっている。

当月は、前月よりも微増傾向となった。各業界からは、一部業況の改善が見られたものの原材料の仕入れが困難、原材料・原油価格の高騰による影響が懸念されるなどの報告がまだまだ続いている。また、今のところ国内の新規感染者数は抑えられているが、新たにオミクロン株が世界的に拡大しており、引き続き予断を許さない状況が続いている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-25.0	25.0	0.0	-25.0	-50.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0
繊維・同製品	0.0	-25.0	0.0	-25.0	25.0	0.0	-25.0	-25.0	0.0
木材・木製品	-25.0	-75.0	50.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0	0.0
印刷	-100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
窯業・土石	-25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鉄鋼・金属	-50.0	0.0	0.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0
一般機器	0.0	25.0	0.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	0.0	-50.0
製造業	-24.0	-4.0	12.0	-16.0	-24.0	-8.0	-16.0	-12.0	-16.0
卸売業	0.0	-33.3	0.0	0.0	0.0	-33.3		0.0	0.0
小売業	-42.9	-14.3	14.3	-28.6	-57.1	-14.3		0.0	-28.6
サービス業	-16.7		-16.7	-50.0	-66.7	-66.7		-33.3	-50.0
建設業	20.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	-25.0	0.0		0.0	-25.0
その他	0.0		0.0	0.0	-50.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-11.1	-20.0	0.0	-18.5	-37.0	-22.2		-7.4	-22.2
全体	-17.3	-8.6	5.8	-17.3	-30.8	-15.4	-16.0	-9.6	-19.2

図表2 【指標別DI値の推移】

	2年		3年		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	前月比	
	11月	12月	1月	2月										
売上高	-55.8	-48.1	-50.0	-40.4	-21.2	-3.8	5.8	-3.8	-7.7	-15.4	-25.0	-25.0	-17.3	7.7
在庫数量	-22.9	-25.7	-14.3	-8.6	-11.4	-20.0	-17.1	-14.3	-20.0	-17.1	-25.7	-8.6	-8.6	0.0
販売価格	-11.5	-7.7	-13.5	-9.6	-3.8	-3.8	3.8	-5.8	3.8	0.0	-3.8	3.8	5.8	1.9
取引条件	-19.2	-19.2	-15.4	-17.3	-11.5	-9.6	-9.6	-15.4	-11.5	-13.5	-17.3	-11.5	-17.3	-5.8
収益状況	-53.8	-53.8	-59.6	-46.2	-34.6	-19.2	-3.8	-23.1	-21.2	-32.7	-30.8	-34.6	-30.8	3.8
資金繰り	-26.9	-26.9	-26.9	-26.9	-19.2	-9.6	-13.5	-21.2	-15.4	-23.1	-23.1	-21.2	-15.4	5.8
設備操業度	-48.0	-32.0	-36.0	-24.0	-20.0	-12.0	12.0	0.0	4.0	0.0	0.0	-8.0	-16.0	-8.0
雇用人員	-11.5	-11.5	-13.5	-11.5	-9.6	-11.5	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-5.8	-15.4	-9.6	5.8
業界の景況	-57.7	-51.9	-61.5	-50.0	-36.5	-28.8	-13.5	-28.8	-25.0	-32.7	-36.5	-30.8	-19.2	11.5

## 特記事項

### 情報連絡員報告（令和3年11月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	昨年に対比すると売上は増加している。しかし、原材料の値上げが続いており今後が心配である。また、石油などの高騰による影響も考えられる。
	あん類製造業	緊急事態宣言が解除されたが、個人消費にはつながっていない。
繊維工業	縫製業	昨年度は緊急支援で防護服・マスク等の生産があり何とか雇用を守れたが、今年は支援品もなく仕事量が少ない。材料等の入荷も悪いので休業日が増えた。
	染色繊維業	全体的に好転が見られるも電気・ガス・産油等の経費や輸送費の増加、染料・助剤の値上げがあり工賃のアップがなければ厳しい状態である。
木材・木製品	一般製材業	ウッドショック問題について回復の兆しが見えはじめたが、世界的な原油価格の上昇によりサプライチェーンが棄損されることによる価格上昇を危惧している。
	家具・建具製造業	一部には業況改善に転じた企業も見られるが、悪化している企業が大半である。材料や部材価格が高騰していることから、収益が確保出来ない企業が多い。制度融資の拡充により資金繰りは比較的安定して推移している。
印刷	印刷業	新型コロナウイルス感染症の影響で、印刷物需要が減少しており収益が悪化しているなか、印刷資材であるインキ、刷版材料、主要資材である印刷用紙等が大幅に値上げとなっている。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは、順調に出荷している。 肥料関係は、昨年同様の推移で進んでいる。 建材関係は、工事物件の減少により砕石、土質共に減少傾向である。 全体では、前年並みであった。
	陶磁器・同関連製品製造業	緊急事態宣言が解除され、陶芸家・製陶業が製造を開始するかと思った矢先にイベントが中止になり製品の在庫過多のため、売上減になった。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	先月と変わらず半導体不足、材料費も（有償支給）高騰している。
	金属製品製造業	材料高騰・不足の影響が出てきており、今後の懸念材料である。
一般機器	一般機械器具製造業	前年同月と比較し、全般的に売上高は微増傾向となっている。しかし、仕入資材の高騰が続く一部調達が困難な状況も見受けられ操業度（稼働）に影響が出ている。企業間格差があるものの収益状況の悪化企業は少なくなってきた。新型コロナウイルス感染症による懸念はあるものの、企業努力により経営悪化の回避を期待しつつ今後の動向を注視していく。
	一般機械器具製造業	製造業者の7割程度は、半導体不足の影響が大きくなってかなり厳しい。建設業界・介護業界は、人手不足がかなり慢性化しつつある状況。ようやく、入国緩和の方向に動き出したと思ったらオミクロン株の出現で先が読めない。
卸売業	各種商品卸売業	一部業種を除き全体として売上高、収益状況、業況等は前年同期に比べ好転となった。各社とも仕入れ単価の上昇が懸念される。

小売業	飲食料品小売業	アメリカ・ブラジルの食肉工場のスタッフが帰国して入国が出来ないため、工場や輸送の人員不足とオーストラリアの「干ばつ」で生産が少なく、価格が高騰している。また、食品全般が値上がりしているが、11月に入り緊急事態宣言が解除になり動きが出てきた。
	中古自動車小売業	中古車の玉不足は解消されず新車製造も平常に戻りつつあるも、中古車の発生の正常化は2～3ヵ月先の見込み。またガソリン価格の高騰もあり販売意欲も減少している。
	花・植木小売業	国内生産の減少や、輸入商品の減少により入荷量が増えず高値相場が続いている。特に業務需要が牽引して、菊類、バラ、カーネーション、トルコキキョウなどは月を通して引き合いが強かった。感染症対策の強化や、ワクチンも進み婚礼需要は順調に回復している。葬儀件数は例年並み。慰霊祭なども規模を縮小して開催された。小売りの動きは鈍かったが、選挙や叙勲のお祝いで花屋によっては胡蝶蘭などの高価な品物がよく動いた。
サービス業	自動車整備業	年末にかけ操業度は上昇傾向にある。しかし、資金繰りの悪化、売掛金の増加など改善しなければいけない課題もある。
	旅館・ホテル	11月は宇都宮市内全域のホテルの稼働率は平均55%をやっと超えてきた状況。コロナ前の11月は年間で一番高稼働な時期でもあるので、まだまだ回復の道は長いと考える。また、第6波が想定されているので、その前にどこまで戻せるかがアフターコロナを見据えた中で重要になる。(宴会)新型コロナウイルス感染拡大により100%ダウン。(飲食店)11月はコロナ禍以降で一番動きがあった。12月もいけるところまでこのまま動いてもらいたい。
	給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響もあるが、新規事業である惣菜の製造販売により前年同月より増加傾向にある。上期は増収減益となっていたが、徹底したコストダウンで徐々に収益は改善されてきたが、新型コロナウイルスが終息しない場合は、収益・資金とも悪化していくと思われる。
建設業	総合工事業	コンクリート製品等、建設資材の値上がりが進んでおり、今後の影響を心配している。公共工事の発注が進み、組合員の手持ち工事はそれなりに有り、工事を実施している状況である。
	職別工事業	前年同月に比べ、売上高においては若干ながら増加傾向にあり、受注も顕著なことから業績回復の傾向が見受けられる。
運輸業	貨物軽自動車運送業	感染状況は落ち着いたが、物流にはまだまだ勢いが戻ってきていない現状。また、燃料費高騰により厳しい状況であるが師走の動向も注視していく。
	一般乗用旅客自動車運送業	最近のコロナ感染者減少に伴い、日中や夜間も人通りが多くなった。前年対比は7～8割ほど売上も戻りつつある。